

西海ブロック水産業情報

NO. 69 (平成22年4月～6月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>4月中下旬に本県で生産したアカアマダイ種苗0.3万尾(65mm)を萩市地先に、6月1日に宮津栽培漁業センターより配付を受け、中間育成したアカアマダイ種苗約0.1万尾(91mm)を下関市地先に放流した。今年の累計放流数は約2.7万尾。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●6月1日より青壮年部主体の抱卵ガザミの再放流活動を開始。(増殖) ●有明海漁業振興技術開発事業において、クルマエビ放流を実施。6月9日～15日に50mmサイズ、140万尾を福岡県地先で放流。(ノリ養殖) ●カキ殻糸状体の培養を開始してから3ヶ月が経過した。5月まで生長は遅れ気味であったが、好天と研究所の指導により、6月前半に十分な日照が確保できたため、生長は平年並みにかなり近づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●シンクロトロン光によるケンサキイカ平衡石の分析 ●カサゴ放流用種苗16.7万尾を配布済み。 ●天然アカウニ、ムラサキウニの棘抜け症状発生 ●1～5月まで長期にわたり、ほぼ全域で発生。発現個体は2割(平成19年度と同様)程度。 ●天然アワビ(クロ、マダカ、メガイ)のへい死、衰弱が5月頃から確認された。 ●離島で発生、へい死・衰弱個体の割合は、5～50%。 ●タイラギ干潟移植試験、放流アゲマキ追跡調査、クルマエビ放流(体長50mm 137.9万尾)、ガザミ放流(C5(20mm)4.6万尾)、アサリ・サルボウ生息量調査 ●養殖マガキの付着密度比較試験 ●沖合域におけるモガイ殻 散布耕耘試験 ●冷凍網期は、東・中部地区および南部地区の一部で12月26日に冷凍出庫され、スタートしたが、西部地区と南部地区の残りは、12月下旬から西部漁場を中心に珪藻赤潮が発生し栄養塩が低下したことから、それぞれ1月9日、2月7日に出庫を延期し、4月13日まで生産が行われた。 ●2月下旬まで栄養塩が全体的に低い状況で推移したことから、12月29日に南部漁場で色落ちが確認され、1月上旬には中部地区で、中旬には東部、西部の沖合漁場まで拡大するなど厳しい生産環境ではあったが、ダムからの緊急放流や栄養添加(施肥)等により、西南部地区の一部を除き、4月13日の漁期終了まで生産が続けられた。 ●冷凍網期の生産状況は、生産枚数12.2億枚、生産金額130.0億円、平均単価10.8円となり、枚数、金額共に平年(H5-20)とほぼ同じ結果であった。 ●平成21年度漁期の生産状況は、生産枚数17.9億枚、生産金額193.8億円、平均単価 10.84円となり、枚数、金額共に平年(H5-20)よりやや上回る結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●標識放流 ●トラフグ(全長7cm、10万尾、有明海)、ホシガレイ(全長5cm、8万尾、有明海) ●ヒラメ(全長10cm、10万尾、有明海)、クルマエビ(全長5cm、70万尾、有明海) ●アカアマダイ(全長10cm、4千尾、対馬)について放流を実施 ●放流魚追跡調査 ●トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、アカアマダイ、アワビ他について追跡調査を実施 ●中間育成試験 ●ホシガレイ、ガザミについて実施 ●種苗生産 ●コウライアカシタビラメ:2月下旬～3月に有明海沿岸海域で漁獲された天然親魚から採卵し、種苗生産試験を実施し、全長30mm の稚魚、5,000尾を生産した。 ●カワハギ:5月下旬に天然親魚から採卵し、種苗生産試験を実施している。 ●クエ:5月下旬に養成親魚からホルモン処理で採卵し、種苗生産試験を実施している。 ●タイラギ:種苗生産試験を開始した。 ●マガキ(シングルシード):種苗生産試験を行い、試験養殖を実施中。 	<ul style="list-style-type: none"> ●6月から年末出荷用クルマエビの池入れが開始された。池入れ時のPCR検査ではPRDV陽性個体は発見されていない。

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<ul style="list-style-type: none"> ●カンパチ種苗生産試験:4月2日採卵し、5月上旬33千尾生産 ●スジアラ種苗生産試験:6月20日採卵し、生産中 ●シラヒゲウニ:放流用として5～6月に157千個出荷 	<ul style="list-style-type: none"> ●カワハギの種苗生産試験:6月22～24日にかけて、親魚60尾から約55万粒の受精卵を回収、35トンコンクリート水槽に收容し、種苗生産を開始。並行して、通気量変える等の諸条件を設定してのふ化試験を実施。 ●イワガキの種苗生産試験:予備試験として5月28日より採卵を実施(採苗開始から5日後にはへい死個体が多くなり、廃棄)。本試験を6月28日より開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●4～6月の赤潮発生状況は、以下のとおりであった。コクロデニウム・ポリクリコイデス赤潮(豊後水道、猪串湾)1件 ●プロロセントラム・デンタータム(別府湾、鶴崎泊地)1件 	